

かけはし

中国残留日本人支援団体

コスモスの会だより 第3号 2013.1.1

編集発行：コスモスの会広報部 〒661-0953 尼崎市東園田町4丁目152-16 TEL: 06-6493-5563
FAX: 06-6493-0817

スタッフの横顔

中国に憧れて
中学生の頃から「中国」に興味を持った門野さんは、中国の文学や歴史に関する本をあれこれ読むうちに中国の虜となり、それらを原語で読みたいという熱意から独学で中国語の勉強を続け、50年にも及んでいます。
貿易会社に就職
是非中国へ行ってみようという思いで就職した貿易会社では、1年に10回もの中国出張が実現

昨年、11人の方が新たにスタッフに加わりました。そのうちの一人、門野俊樹さんを紹介しましょう。

中国では、仕事が終わると自由にのびのびと地元の人とのふれあいを楽しまれました。25年間に及ぶ中国出張の間に中国の多くの地方、片田舎にまで出かけ、中国の多様性を身にしみて感じました。
日本語ボランティアに
退職してから中国関係の新聞記事は極力目を通し、催しには積極的に参加しました。そして2012年3月、神戸で行われた宗景正氏の写真展

で尼崎日本語教室のためのボランティア募集を知り、すぐに活動に参加しました。
ところが実際に教室に来てみると、長年日本に住んでいるにもかかわらず、日本語を話すことのできない学習者が多いことに衝撃を受けました。それからは、どうすれば彼らが日本語を話せるよう支援できるだろうかと思いついていました。
工夫して学習支援
それでも、90年代に中

国へ進出した日本企業で、従業員である中国人達に技術を伝える際に留意した「5つのあ」つまり「あせらす あわてず あきらめず あてにせず あなごらす」を心に留め、今では楽しく学習ができるように工夫しています。
最後に、学習者の日本語能力向上に少しでも役に立てばと、一般外国人向けではなく中国語を話す人のための特別テキストを作成したいと、意欲を語っておられました。
(田中いすみ)

頑張る二世たち

デイサービス施設で働く
下平鳳子さん

やりがいを感じて
バラグループの下平鳳子さんは中国瀋陽市で生まれ、94年に中国残留孤児である父親の、呼び寄せ家族として来日しました。家族は夫と1男1女です。そして「みちのり」欄(第3面)は鳳子さんの父である下平朋好さんの体験です。
3年前、日本語に苦勞し、友人に教えてもらいながら、ホームヘルパー2級の資格を取りました。その資格を生かして市内の木戸デイサービスセンターで2年前から働いています。今は事情があつて週に

2〜3日の勤務です。仕事の内容は利用者へ一日を過ごしていただくことです。体操やカラオケを一緒にしたり、入浴、食事などの介助をしています。
職場の雰囲気がとても良い上に、利用者にも喜んでいただいているので、やりがいを感じて楽しく働いています。
シフト制なので休日は不定期ですが、お母さんの病院通いに付き添ったり、働いている娘さんと買い物に行ったりしています。これまで映画を観に行ったりことなどは殆んどないので一度行ってみたいそうです。息子さんは高校生ですが、学校行事を見に来ないでと言われるのが



下平鳳子さん(左)は利用者さんとクリスマス準備をしていました。

ちよっぴり寂しいお母さんでもあります。
これから先も子どもたちのために、しっかり仕事をしたいと話しておられました。
(山本育子)

2013年明けまして おめでとうございます



猪名川の朝、遠望は大阪市街

今年もよろしくお願ひいたします。

中国のお正月

中国では日本と違って、旧暦でお正月を迎える習慣があります。今年(13年)旧暦の1月1日にあたるのが2月10日、たいていはその前日の「除夕」と呼ばれる大晦日から1週間春節として連休が始まります。

学校も商店も企業も役所も休みになります。
中国は国土が広いので、お正月の過ごし方は地域によって異なりますが、東北地方では「除夕」に、家族全員で水餃子を作ります。必ず出るおかずは餃子です。中国語では「魚」す。
「年々有餘(魚)」、毎年蓄えがますますよくなるという意味だそうです。
午前0時、年が変わると、子どもたちは爆竹を鳴らします。そのあと水餃子を家族全員で食べます。

引揚げの苦難 館内には多くの引

秋のバスツアー 舞鶴引揚記念館へ

舞鶴港は、45年から13年間にわたり、大陸からの引揚げ者66万人を受け入れた場所でもありません。現在も自衛隊が駐屯し軍艦や総監所があります。そしていよいよ目的の舞鶴引揚げ記念館に到着しました。

雨の中を舞鶴へ
2012年10月23日の朝、当日は雨と電車の遅れが重なり、ハラハラとドキドキでしたが、何とか無事、定刻に出発することができました。車中は、歌や地名あてクイズなどで、やっとみんなの笑顔が見られるようになり、いざ一路舞鶴へ...
揚者たちと家族の対面写真や手記、外地から家族への手紙などの貴重な資料がたくさん展示されています。すべて戦争当時の生々しい雰囲気や館内にもあふれています。
家族との対面写真では、戦争が終わり、やっと開放された喜び、生きて帰れた喜び、嬉しさが溢れ

れた資料も数々ありました。その中に収容施設での食事風景が人形で再現されたものがあり、とりわけ衝撃的でした。寒いため大衣をまとい、頭を低くたれ、パン1枚と僅かなスープを飲む、表情のない捕虜のうつろな眼。極寒、空腹、強制労働との戦いから体力、気力を徐々に失われてゆく姿がまさかとえがきだされてきました。
戦争の無い社会を
戦争の終結・処理においてなぜこのようなことが...、彼らがなぜ責を負わねばならなかったのか。
戦争がもたらした悲劇を再度認識し、戦争の無い平和な世の中がいかにか大切であるか改めて感じました。涙ぐんで見学していた学習者(中国残留孤児の方)のことが忘れられませんが、
帰路は雨も上がり、薄日も差してきました。途中の「これとれ市場」で新鮮なお土産の買い物を楽しみました。車中では疲れも忘れ、隣席同士話

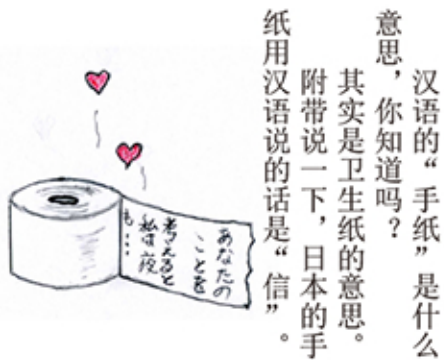


引揚記念館前撮影。戦争と大陸に渡った日本人のことをあらためて考えた一日でした。

がはずみ、最後になるにつれ盛り上がった1日でした。
(杉本利一)

あんな話、こんな話

中国語の文字で「手紙」というのは、どんな意味なのでしょう。実はトイレットペーパーのことです。
ちなみに、日本語の手紙は、中国語で「信」と表現します。



汉语的「手紙」是什么意思，你知道吗？
其实是卫生纸的意思。
附带说一下，日本的手纸用汉语说的话是“信”。



門野俊樹さんは身近な体験の文例を使い、過去形と経験について講義しています。

ご参加下さい

コスモスの会
新年交流会
とき：1月19日(土)
午後1時〜4時
会場：尼崎市労働福祉会館
中ホール(3F)
参加費：1000円
(会員500円)
餃子作りに参加を希望される方は10時までにお越し下さい。準備の都合がありますので事前の申し込みをお願いします。
コスモスの会
06-6483-6108(田中)

編集後記

年の瀬が押し迫り編集部は新年号発行を目指して奮闘。今回は編集から発行までの日程がぎつつかつたため、大慌てでした。そのため、編集会議では議論が白熱しましたが、何とか紙面構成がまとまり、無事完成しました。
2012年、俄かに緊迫した日中関係、私たちが支援している残留孤児たちは、戦後中国(旧瀋陽)にとり残された中国人の養父母に育てられ、配偶者は中国人です。日本と中国両方に故郷を持つ立場上、この厳しい現状をとても懸念しています。
新しい年は、日本と中国の信頼関係が修復され、もっと気楽に中国のことを語り、聴くことなく行き来できる日が来ることを願っています。